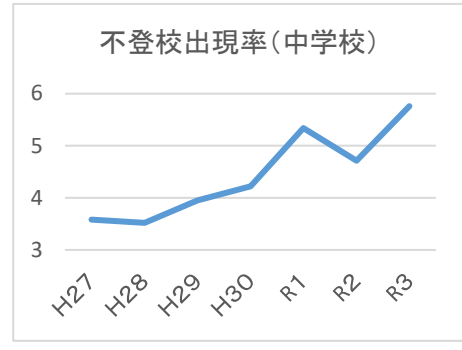
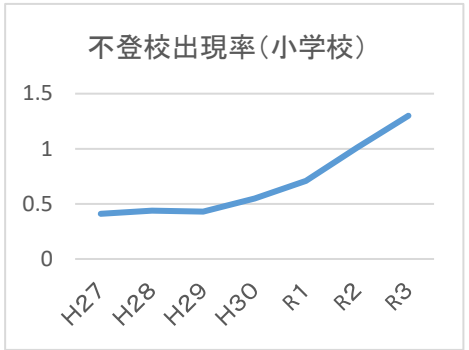


大田区 不登校児童・生徒の居場所

矢印 (← →) は人の流れを示す。

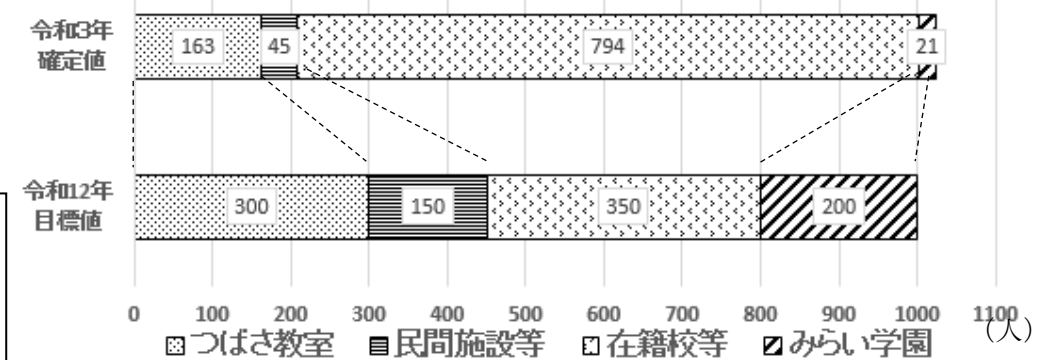
不登校・連続又は断続して30日以上欠席した者



○人口統計等で、今後の児童・生徒数はほぼ横ばい状況にある。
 ○令和3年度の不登校者数は **1023人** (下記 R3 人数は 1023 人の内数) であった。
 ○不登校特例校 (みらい学園) 開設目途としている令和12年度における不登校者数を当面の間、約 **1000人** 程度に抑えることを目指す。

資料 4-1
 令和5年1月31日
 教育総務部指導課

大田区の不登校児童・生徒の居場所



小・中学校

<R3>627 <R12>350
 小 : 270 → 小 : 130
 中 : 357 中 : 270
 ※特例校、転入学支援施設等による受け皿拡大効果
 ※R3人数は現在登校できている児童・生徒を含む。

<在籍学級への登校>
 ○在籍学級へ登校できているが、30日以上欠席している。

<別室登校>
 ~在籍学級への復帰~
 ○在籍校には何とか来ることができる。

<学校・SSW等による確認>
 ~人との関わり~
 ○学校 (担任、養護教諭、SC等) やSSWとは関わるることができる。

<メンタルフレンド>
 ~人との関わり~
 ▼在籍校に通えない。▼家に閉じこもりがち。
 ○話をしたり遊んだりできる。

<ICTを活用した学習>
 ~学びの継続~
 ▼在籍校に通えない。▼家に閉じこもりがち。
 ○ICTを活用した学びであれば学習できる。

不登校特例校 (みらい学園)

<R12>200
 ~みらい学園での卒業~
 ▼在籍校への復帰は困難。
 ○家から外に出ることができる。
 ○少人数であれば、ある程度の学校生活を送れる。
 ○学習意欲が高い。

<R3>21 <R12>96
 中 : 21 → 小 : 24
 中 : 72

転入学支援施設 (仮称：プレみらい)

~不登校特例校 (みらい学園) への転校~
 ▼在籍校に通えない。
 ▼在籍校への復帰は困難。
 ○家から外に出ることができる。
 ○少人数であれば、ある程度の学校生活を送れる。
 ○学習意欲が高い。

・準備・見極め等のため開設。
 ・みらい学園への転校を前提とした教育活動 (体験含む) を行う。
 ・みらい学園と同一建物内に開設 (予定)。

STEP1 安定的に登室することができる。
 (登室率 80% (病休等を除く) が1か月程度)
 STEP2 みらい学園の授業に、スポットで参加することができる。
 STEP3 安定的にみらい教室で授業を受けることができる。
 (みらい学園の授業出席率 80% (病休等をのぞく) が1か月程度)
 STEP4 みらい学園の入退室検討委員会でアセスメントする。
 STEP5 入退室検討委員会で「適」と判断される。

つばさ教室

<R3>163 <R12>300
 小 : 36 → 小 : 63
 中 : 127 中 : 211

~在籍校への復帰~
 ▼在籍校に通えない。
 ▼規律正しい生活。
 ○家から外に出ることができる。
 ○少人数であれば話をしたり遊んだりできる。
 ○自主学習・体験活動・運動を行うことができる。

民間施設等 (フリースクール)

<R3>45 <R12>150
 小 : 22 → 小 : 75
 中 : 23 中 : 75
 ※連携強化による効果

~在籍校への復帰・居場所等~
 ▼在籍校に通えない。
 ○家から外に出ることができる。
 ○特別な環境 (少人数、自由度が高い等) であれば、話をしたり遊んだりできる。

<ネットコース> ~学びの継続~
 ○学習意欲が高い。

自宅

<R3>167
 小 : 57
 中 : 110

▼在籍校に通えない。
 ▼支援センター、民間施設等の支援につなげようとしている。

不登校施策を推進するセンター的機能・パイロット的機能